



## 消防訓練初め式

令和8年1月7日(水)に、船津広場において、消防訓練初め式が挙行されました。消防団員241名、女性防火クラブ19名が参集し、人員報告、国旗掲揚、黙とう、観閲のあと、峪合団長が「災害を軽減するために団一丸となつて邁進する年でありたいと考えております。住民の生命・身体・財産を守り、訓練を通じ、団員の技術力・組織力の更なる強化を図る所存です。」と訓示。勤続表彰、町長挨拶、来賓祝辞等が行われた後、消防車23台が船津広場下河川敷へ移動し、一斉放水を行いました。表彰状および感謝状が贈呈されたのは、次の皆様です。(敬称略)

### 和歌山県消防協会総裁表彰 20年勤続章

|                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 橋本 憲明 (第1分団 第3班 副班長) | 田村 修平 (第7分団 第3班 班長)  |
| 丸山 幸男 (第2分団 第1班 団員)  | 羽佐 秀隆 (第1分団 第1班 副班長) |
| 宮本 裕司 (第2分団 第2班 団員)  | 安宅 勝 (第1分団 第1班 団員)   |
| 東村 章弘 (第4分団 第3班 団員)  | 中 拓磨 (第1分団 第1班 団員)   |
| 堺 圭史 (第8分団 第1班 団員)   | 田淵 裕規 (第2分団 第2班 団員)  |
|                      | 浅田 佳亮 (第2分団 第3班 団員)  |
|                      | 和田 俊哉 (第4分団 第1班 団員)  |
|                      | 小路 史 (第4分団 第2班 団員)   |
|                      | 遠藤 智 (第4分団 第3班 団員)   |
|                      | 原 孝太郎 (第5分団 第1班 団員)  |

### 日高地域消防協会会長表彰 10年勤続章

|                     |              |
|---------------------|--------------|
| 龍田 康史 (第5分団 第2班 団員) | 古田 覚 (元団長)   |
| 小早川 勇 (第5分団 第2班 団員) | 坪内 明男 (元分団長) |
| 大江 広真 (第5分団 第3班 団員) | 宮川 英樹 (元団員)  |
| 今北 知志 (第7分団 第1班 団員) | 森園 義彦 (元団員)  |
| 近藤 雄一 (第8分団 第1班 団員) | 神内 義博 (元団員)  |

### 和歌山県消防協会総裁表彰 退職団員感謝状

|                     |      |
|---------------------|------|
| 中川 裕行 (第1分団 第3班 班長) | 町長表彰 |
| 西川 潔 (第1分団 第1班 団員)  |      |
| 嶋津 純 (第5分団 第2班 団員)  |      |

### 町長表彰 25年勤続章



## 二十歳のつどい

A gathering of 20-year-olds

令和8年1月11日(日)に、日高川交流センターにおいて、二十歳のつどいが行われ、平成17年4月2日から平成18年4月1日まで生まれた新成人90名(男42名、女48名)のうち73名が出席しました。

中津琉友さんによる国歌ピアノ演奏が行われ、町長式辞をはじめ、来賓の方々の祝辞をいただいた後、代表して堀端稔大さんが「自分の夢や目標に向かって挑戦を続け、失敗を恐れずに学び成長する大人でありたいと思います。今日まで支えてくださったすべての方々に感謝するとともに、これからの人生

堀端稔大さん



中津琉友さん



を責任と誇りをもつて歩むことをここに誓います。」と、花光香桃さんが「これからの人生の中で、自分を大切にできる場所を大切にするとともに、誰かにとつての居場所をそつと支えらるような心を持ち続けていきたいと思っています。この町で育まれた時間を胸に、それぞれの未来へ進んで参ります。」と、小田堅太さんが「どんな状況でも感謝と誠実さを忘れず、一歩一歩確実に前へと進み続けます。そして、自分の成長を通して、地域や社会に貢献できる大人を目指していきます。」と決意表明をしました。

小田堅太さん



花光香桃さん



## 和歌山南陵高校と日高川町が協定を締結



令和7年12月18日(木)に、和歌山南陵高等学校と日高川町は、災害時における支援体制の強化を目的として、「災害時支援に関する協定」を締結しました。

本協定では、学校施設を避難所として活用するとともに、生徒や教職員がボランティアとして、避難所運営の補助や物資の仕分け・配布、清掃活動、高齢者や要配慮者への見守り支援などを行います。また、重機やドローンの操縦資格を有する生徒が、復旧作業や被災状況の確認、物資の軽量輸送などに協力することにも想定されています。

町と学校が連携し、地域の即戦力となる人材育成と、住民の安全・安心の確保につなげていきます。